



○ 3年 私立高校入試

2月3日(火)と4日(水)に私立高校入試がありました。この日の為に、1月20日(火)に、今年度も地域の元教員や市内の退職教員の皆様を講師として呼び寄せて、熟練の先生方の的確な助言や指導を頂きました。生徒たちは普段よりさらに真剣に取り組み、廊下で待っている間にもお互いに質問をし合う等の姿が見られました。おかげさまで2月13日(金)の私立高校の合格発表では、全員が合格することができました。

生徒たちからは、「自信がなかったけど、受かってよかった」と安心したという話や、「受検が終わったから終わりじゃない」、「高校からの宿題をしっかりやらなければ」、「(中学生生活)限られた時間を無駄にしない」など、次の段階への決意を語ってくれました。

また、3年生は各教室に「受検は団体戦」というスローガンを掲げて取り組んでいます。次は、3月4日(水)と5日(木)の公立高校入試に挑戦します。



○ 2年シズクリプロジェクト 静岡県大会2次予選



2026年1月24日(土)に実施された「2025 SHIZUOKA ×CUP 2nd STAGE」で、2年生のチーム「アチャモキャップ」が企画したエスカリエは、全国大会への出場を決めました。この企画は、坂道が多いという地域の課題を、ジャトコ株式会社のCVTの技術を用いて解決しようとしたものです。全国が決まった瞬間、本人たちも大きな喜びを感じていました。全国大会は2月25日(水)立教大学池袋キャンパスで行われる予定です。

2次予選会場で発表を聞いていた方々が、2次元コードから多くの温かいコメントを贈ってくれました。その一部を紹介します。

- ・ 優しい気持ちが形になっていて素晴らしい。うちにも欲しい。
- ・ エスカレーターやエレベーターじゃない新たな発想がすごい。
- ・ 昇り降りにトランスミッションを使うって斬新すぎる！優しさならではの発想がステキ！
- ・ 具体的な構造が良い。あくまでも補助なので、人間の筋力を落とさないのが良い。
- ・ 少子高齢化問題を捉えて、高齢者の生活の補助としての役立ちそうだと思います！発想が面白くて実現したいなと思います！
- ・ 模型と動画が分かりやすく、エスカリエという名前も印象に残りました。
- ・ ユニバーサルデザインとして、本当に普及してほしいと思いました。
- ・ 住民に寄り添った提案で温かさを感じた。動画を見てもう実現できると思った。

○ 1年 SPAC 中高生舞台芸術鑑賞事業（1月15日）

『ガリレオ～ENDLESS TURN～』

いまわたしたちが常識としているものは、いつ誰によって唱えられたものなのか——天動説が常識とされた時代に地動説を唱えたガリレイの半生を、ナチス時代を生きた自身の生涯と重ね合わせたベルトルト・ブレヒトの傑作戯曲。情報があふれ、何を信じるのかが切実な問題となっている現代、この作品が描き出す「真実」とは。2023年、“観光演劇”と称しポップで臨場感のある新感覚の舞台『伊豆の踊子』で多くの若者を魅了した多田淳之介が、この歴史的大作で現代を生きる若者に問いかける。SPACの俳優20名が出演する群集劇。 [SPACのHPより]

ガリレオの半生を子ども時代、青年期、老年期と役者を変えて物語が進んでいき、役者が客席の近くまで来たり、惑星のボールを舞台から役者が客席に投げ、お客が協力してボールを舞台に戻したりするなど、会場全体が一体となる感覚が素晴らしい舞台だったようです。

生徒からも「すごーよかった。」「大音量で迫力があつた」と興奮して話をしてくれました。（本当に面白かったんだろう）と話しぶりから感動が伝わってきました。何度か見ている先生方でさえ、「今年度の舞台は、すごくよかった」という話をしていました。

帰りに、役者さんと生徒たちがクラス毎に記念写真を撮影しました。校内に掲示されているので参観日にぜひ見てください。

○ お別れ遠足 特別支援学級（1月27日）

特別支援学級では「お別れ遠足」を企画しました。岳南鉄道から東海道本線に乗り換えて由比本陣公園まで行きました。

午前中は、由比本陣記念館「御幸亭」で煎茶を飲みながらお庭の話を聞きました。そして、東海道由比宿交流館を見学しました。昼食は、ゆい桜えび館で食事をしました。「桜エビのかき揚げがめちゃくちゃおいしかった」と、生徒たちは口をそろえて話していました。午後は東海道広重美術館を見学し、版画体験も行いました。皆とても真剣に取り組んでいました。生徒からは「美術でゴッホが浮世絵の模写をしていると勉強したから、実際に見れてよかった」とうれしそうに話していました。

